



知床森林センター



知床の森から



平成元年3月 第3号

一年を振り返って― 案内内容の充実に努力を

昭和六三年三月一日、知床森林センターが発足して一年が過ぎ、その間、知床国有林あるいは、当センターを多くの方々を訪れました。主な訪問者だけでも、五月には大蔵省佐々木主査が、六月には報道関係者、土井社会党委員長、岩垂国会議員及び林野庁青木次長が、九月には林野庁小澤業務部長、十月には林政審議会室田委員、角館北海道局長及びロンゴ集団研修の海外からの研修生、九カ国十二名など多数が上がります。このほかに大学、研究機関等の動植物の研究者が、数多く訪れております。

また、二月七日には、林業と自然保護に関する検討委員会から、林野庁長官に報告書が提示され、横断道路周辺以東が森林生態系保護地域の候補地となる等、新たな位置付けがされました。今後も知床には多くの方々を訪れると思います。短い時間の訪問が多いためパンフレット・写真・ビデオ等を活用して解りやすい説明、案内にこころがけたいと思っております。

技術開発の成果を 研究発表

昭和六三年度、北見営林支局業務研究発表会が、一月三十一日、二月一日北見市で行われました。発表は二〇課題にのぼり、知床森林センターとして、択伐後一年経過した現地の更新状況と、そこに生息している野生鳥獣への影響について、春から調査を続けた二課題について発表しました。村上業務係長が、択伐施業跡地に植え付けたミスナラポット苗及びトドマツ・ミスナラ・イタヤ等の天然稚幼樹が順調に生育し、択伐施業跡地の森林が、確実に活性化している状況を、また、遠藤技術専門官が、野生鳥獣の生息状況について、択伐前の動物調査とほぼ同じ種類が確認されており、天然記念物のクマガラについても、今年も三羽が無事巣立ちしたことなど、森林生態系に対しての影響が少なかったことを発表しました。

前者は日本林業技術協会賞を、後者は営林支局長優秀賞を受賞しました。今後とも、着実に研究を進めていくことにしています。

手作り パンフレット作成

知床森林センターを訪れる方々に、知床国有林の紹介にコピー資料、観光パンフレット等を利用して戴いていただきましたが、国有林についての内容を盛り込んだきちっとしたパンフレットを作りたいと職員が相談し、手作りのパンフレットを作成しました。国有林として、新たな分野の仕事である森林インストラクターとしての内容をも盛り込んでみました。

一度見たらホイーのパンフレットにならないためには、どのような内容にするか、目を引けるにはレイアウトをどうするか、イラストも何回も書き直しました。この一年間に撮影した写真をフルに使い満足できる機努力したつもりです。初めてのことであり、内容的には、まだまだ未熟な点も有ると思いますが、今後、発行回数を重ねて行くことにより技術の向上を図り、世界の知床にふさわしいものにして行きたいと考えております。御意見、御指導をお願いします。

はばたけ アイドルキャラクター

知床森林センター新設以来一年を迎えその間センター独自のイベントの実施、広報「知床の森から」の発刊、訪問者への案内及び地元行事への積極的な参加等を通じて、地域の方々に知床森林センターの仕事の内容等も理解されつつあるところです。

今後とも、地域の方々及び知床を訪れる方々に、一層、知床森林センターに親しみを持たせて戴き、国有林に対する理解を深める一助とするため、知床国有林を象徴するアイドルキャラクターとして、クマガラを知床森林センターのシンボルマークとしましたので、可愛い名前をつけてください。



作文 論文募集 「知床の森林への期待」

「みどりの日（四月二十九日）」の制定記念事業の一環として、知床森林センター発足一年にちなみ「知床の森への期待」をテーマにした作文・論文を募集いたします。

知床は原始的自然が多く残されている自然の宝庫として、森林を維持管理をしています。その知床国有林の将来の在り方、期待するもの等については、人それぞれのお考えをお持ちと思います。今後の知床国有林について考える上での参考にさせて頂きたく、北見営林支局管内の皆様から作文・論文を募集いたします。

テーマ 「知床の森林への期待」

作品 四〇〇字原稿用紙八枚以内

応募資格 どなたでも応募できます

締切り 平成元年五月五日

発表 平成元年五月二一日

申込み先 知床森林センター
〒997-0101 斜里郡斜里町本町一五番地

入賞作品三点には、賞状及び木製記念品を差上げます